

令和2年度 瑞浪市総合教育会議 会議録

(要点筆記)

日時 令和3年2月18日(木)13時30分開会
場所 瑞浪市役所 4階 全員協議会室

出席者 (構成員)

市長	水野光二
教育長	山田幸男
教育長職務代理者	可児恵太
教育委員	羽柴誠
教育委員	柴田洋子
教育委員	加藤博之

(事務局)

事務局長	南波昇
事務局次長	薄井義彦
教育総務課長	林恵治
社会教育課長	大山雅喜
スポーツ文化課長	和田光浩
企画政策課長	梅村修司
教育総務課総務係長	西田寿恵
教育総務課総務係	安藤みちる

説明者	学校教育課課長補佐	市川友博
	学校教育課教育推進係長	廣瀬浩一郎
	学校教育課教育推進係	舘林美和

傍聴者 なし

報道関係者 なし

次 第

- 1 市長あいさつ
- 2 教育長あいさつ
- 3 協議・調整事項
 - ① ICT 教育に向けた現状について
 - ② 学業支援員を必要とする児童生徒と学校現場での学業支援員の現状について
 - ③ 瑞浪市のいじめの現状について
- 4 その他

13：30 開会

○事務局長

ただいまから令和2年度瑞浪市総合教育会議を開催する。

1 市長あいさつ

○市長

日頃は、児童生徒の教育向上にそれぞれの立場からご指導いただき、心から感謝申し上げます。

コロナについて、第1波の時は多くの市民の協力をいただき、瑞浪は感染者0で過ぎた。夏の第2波の時に第1号が発生し、10人くらいまで広がった。その後も皆さんの努力のおかげで耐えてきたが、この第3波で一気に感染者が増え、現在の感染者数は56名となった。分析すると、外で感染された方が多く、瑞浪でクラスターが発生することはなかったわけだが、みどり幼稚園で感染者が発生し、関連して北中でも感染者が出てしまったということで、拡大を食い止めるにはどうしたらいいかと夜も眠れないほど心配だった。今も療養中の方がみえるが、今週月曜日から北中が、火曜日からはみどり幼稚園がスタートした。詳しく報告する。北中では生徒1名が、みどり幼稚園関係者の家族が感染し、濃厚接触者ということでPCR検査を受けたところ陽性だった。生徒のクラス、スクールバス、委員会等、その生徒の接触者を急遽洗い出していただき、先生が8名、生徒が35名PCR検査を受け、全員陰性だった。みどり幼稚園は先生が6名、園児が3名感染してしまい心配した。県の健康福祉部長とも連携をとり、当初保健所からは、検査を受けられるのは濃厚接触者及び準濃厚接触者までということだったが、みどり幼稚園は市内で一番園児が多いので、いち早く安心していただくために全員が検査を受けられるよう部長にお願いし、先生が38名、園児が1

86名全員PCR検査を実施した結果、新たな感染者はなかった。ただし、クラスターに認定されてしまったので、県の検査が入り、消毒がされているか、安全対策がされているかをチェックされた。許可が出て、火曜日から通常通り給食も出している。新たに調子を崩した子はいないと聞いている。ワクチンも昨日から始まったが、瑞浪市にいつどれくらいのワクチンが来るかはわからない状況である。今は対策本部を立ち上げ、医師会との連携や、市民に対する接種の順番等の情報提供等、様々な準備をしているところ。16歳以上の市民が接種対象となるが、3万人近い人数になる。詳しい情報が確定したら、接種のためのクーポン券を発行し、予約後接種をしていただくような段取りになっている。市としても、国、県の情報をもとに、市民にスムーズに接種していただけるように取り組んでいく。

今回のコロナで、国も県もオンライン授業を推奨している。海辺から山の上まで自治体があり、すべてに光ネットワーク網がいきわたっているわけではないことは国も把握されていると思うが、全国に推奨された。瑞浪でも日吉の一部にはなかったため、対応ができない高校生がいた。日吉コミュニティーセンターのWi-Fiを利用してもらい対応した。光ネットワーク網が行き届いていないことがわかったので、急遽国と折衝し、12月補正予算を認めていただき、今年秋頃までには市でハード整備を行っていく。そこから自宅に取り込むのは各家庭でやっていただくことになるが、ぜひ光ネットワーク網とつながっていない方には利用してほしいと思っている。それまで少し時間をいただきたい。

教育のICT化ということで、将来大人になったときにIT社会に参加できるような人材を教育の現場から作っていかねばならない、また教育の向上にもICTを活用しなければならない時代になってきているということで、タブレットを使いこなしていただき、教育現場で活かしてほしいと感じている。早く先生や子供たちに慣れていただき有効なICT教育が受けられるようにしてほしい。

瑞浪北中がスーパーエコスクールということで、全国に発信してきた。先日日建設計が検証し、ゼロエネどころか、余ったエネルギーを外部へ売却しているという結果を報告していただいた。今まさに菅総理大臣がゼロエネを推進し、二酸化炭素排出量をゼロにするという公約を出しているが、教育の現場も二酸化炭素の排出量をゼロにするようにしていかないと世界に遅れをとってしまうのかなと感じている。いずれにしても未来を担う子供たちの健やかな育成は、教育委員会のみならずすべての市民の皆さんの希望であり願いであるので、教育委員会にリーダーシップをとっていただき、素晴らしい瑞浪の教育をさらに高めていただきたいと思っている。本日はたくさんの意見をいただき、市長部局と連携を取るべきこと、また市長部局で対応すべきことがあれば取り組んでいきたい。

また、本日、市の校長会で講話をした際の資料を配布した。今瑞浪の中でいる

いろいろなことが起きようとしている。主要な5つの事業について、最後時間が許す限りお話ししたい。

2 教育長あいさつ

○教育長

本日は市長をはじめ教育委員の皆様にお忙しい中ご出席いただき感謝する。

昨年度の総合教育会議は2月20日に開催された。その1週間後の2月27日に安倍元総理が全国の学校の休校要請を発出した。それからもう1年になろうとしている。大変な1年であった。3か月に及ぶ学校休業、学校再開後の子供たちの心身のケア、学業支援、教職員の教育活動及び人的支援等対応していただいた。また学校給食や修学旅行等学校行事への経済的支援、感染症対策に対する物的支援、コロナに関わる学校備品やGIGAスクール構想の前倒しへの経済的支援といったことに対して、市長にはご助力いただいた。また先日の学校関係者の感染者発生時には、市長から県へ直接電話をしていただき、早い学校再開につながった。市長のリーダーシップのもとに、市長部局と教育委員会が密接な連携をとりながら対応できたことに対し、感謝申し上げたい。

本日は3つの議題のほかに、文化センター改修、移転や、文化施設3館の整理統合等、大きなプロジェクトを抱えているので、十分な協議をしたい。貴重な機会であるので、有効な協議をしたいと思う。

3 協議・調整事項

○事務局長

これより本日の協議・調整事項に移る。当会議の議長については、瑞浪市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が務めることが規定されている。これより、水野市長に進行をお願いする。

○市長

これより議長を務める。

①ICT教育に向けた現状について

○廣瀬学校教育課教育推進係長

協議・調整事項①について、資料により説明

○加藤委員

今、具体例として家庭とのコミュニケーションツールとして使うとのことだったが、家庭に持ち帰ることもあるのか。

○教育推進係長

検討中。家庭に持ち帰るとどうしても壊れてしまうこともあるので、ルール作りも必要になる。他市でも検討をしているので、参考にしながら行いたい。

○加藤委員

家庭では各家庭のスマホやパソコン、タブレット等とつなげるということは考えているか。この端末を持って帰るのは厳しいように感じる。

○教育推進係長

児童生徒一人ずつに ID が与えられることになるので、家庭でもアクセスすることができる。

○羽柴委員

教育環境の格差の関係で、このようなラーニングシステムを活用すると、家にいながら習熟度別に取り組むことができる。塾に通えない子や環境がない子が自分の意欲関心で学びを進められることは瑞浪市にとっても宝になる。先ほど市長のあいさつにもあった光回線を、子供のいる家庭のうちお金を捻出できない家庭については市が補助することができるかと思うが、考えることはできないか。

○市長

まずはタブレットを配備してルール作りをしてほしい。教室で保管すると思っているが、そのあたりはすり合わせをしていただきたい。その後いざ持ち帰るとなった場合に、各家庭が接続するのにどれくらいの費用がかかるのだろうか。格差が出るほどの工事費になるのか。

○企画政策課長

おりべネットワークに依頼をすると、当初の費用負担はないと聞いているが、毎月使用料が 3 千～4 千円かかる。毎月の費用の捻出が厳しいという家庭が多ければ、また、今回接続する日吉以外にもそのような家庭があるのであれば、全市的に取り組む必要があるが、そのあたりは市長部局もつかんでいない。

○市長

基本的には今回広げるエリア以外はほぼつながっていると考えている。市内のゴルフ場もつながっていないそうで相談を受けたが、そこまではできないと回答している。一般家庭のつなぎこみはおりべが無料でやってくれるが月々の使用料は個人持ちとなる。勉強以外にも使用ができ、使用料を払う分のメリットはあると思う。子供の勉強以外の使用はできないなどと制限することも難しい。課題としてシミュレーションする必要がある。

○事務局長

基本的には学校の中で使用できるようにするのが教育委員会の方針。いざというときに家庭に持ち帰ってもらい授業を受けられるようにする。回線の整備は基本的には自前となるが、羽柴委員のおっしゃる経済的に困難な家庭については公共施設について Wi-Fi を使用してもらうことを考えている。個別の案件は逐次対応していく。

○市長

今日は詳細まで詰め切れないが、様々な課題があるだろう。コミュニティーセンターがやっていない時間にはどうなのか。

○事務局長

先ほどの話はオンライン授業のことを想定している。

○市長

個々の課題が発生することは目に見えている。対応について教育委員会で検討し成文化すること。

○加藤委員

授業で使用する場合、どのアプリを使用するか。

○教育推進係長

まなびポケットが中心になる。教材の作成、配布、生徒からの課題の回収も一気にできる。これまで接写していたものも画面で映すことができる。基本的にはデジタルコンテンツを自分たちで作成し、このソフトの中で提示しながら授業を進めていく。ベースの教科書もあるし、書いて覚えることもあるので一つのツールとして授業の中に組み込む。使い方は多様にあるので、研究所としても方途を学校に示していき、先生方の声を聴きながら広げていきたい。

○市長

丁寧に早く進めてもらい、すべての子供たちが機器の操作くらいは同じレベルで扱えるようにしないと進めない。一人や二人の先生で全部の機器を見ながらやっていたら、それだけで授業時間が終わってしまうだろう。使い始める前にシミュレーションして指導しておかないとスタートできない。授業しながら使い方を教えることは無理な気がしている。

○羽柴委員

子供や先生方が取り組もうと思ったときに、第一印象で、便利でわかりやすくいいな、と思ってもらうことが重要。一、二回目がとても大事だと思う。苦労が多いわりに成果が少ないと使わなくなってしまうか心配。

○市長

いろいろな心配事がある。教育委員会でもよく考えていただき、現場に指導してほしい。

②学業支援員を必要とする児童生徒と学校現場での学業支援員の現状について

○市川学校教育課課長補佐

協議・調整事項②について、資料をもとに説明

○可児委員

資料表面 3 学業支援員配置の現状中、要望と配置人数について気になる点がある。令和 3 年度瑞浪小と土岐小の欄だが、対象児童がほぼ同数だが、配置予定数が倍の差がある。要望の差や学校の大きさの差等あると思うが、そのような差が生まれている理由と、心配に感じるがどう考えているか。

○学校教育課長補佐

学校からの要望をもとに配置していきたいが、全体で 30 名という人数の中で、学級数や学校の規模もありやむを得ず減らしているところがある。

○教育長

学級数の違いもある。同じ 10 人が 2 学級に入っているか、4 学級にいるかで違ってくる。

○事務局次長

要望はあくまで学校が要望している数。担当が学校を訪問して確認し、教育支援会議も経て、適正な配置を行っている。

○加藤委員

例えば陶小は対象 20 名に対し 1 名等と、学級数と合っていないところもあるが、今の話で各学校の状況によるということか。

○事務局次長

そうである。

○市長

対象児童数のみでなく、事情はそれぞれであることも影響するだろう。

○事務局次長

その通り。そのため担当が確認し、必要な支援員を配置しているという状況。

○市長

全体の数を増やすことが一番いいのだろうが、できる限りの配慮をしながら予算もつけさせていただき、このような配置になっている。

○羽柴委員

限られた予算の中で支援員 30 名を確保していただいて感謝。支援員が 1 人いることで、先生の全体を見るゆとりができ、いいサイクルができる。支援員に頼り切るのではなく、支援員がいることをきっかけに先生たちも授業力を上げていかなければならない。人数の多い学校では、支援員同士で情報共有している

学校もある。逆に1人しかいない学校は誰に聞けばいいのかと思われることもあるだろう。心身と技能面でもサポートしてほしい。時給について、経験等によって変わるのか。

○学校教育課長補佐

そうである。

○事務局次長

支援員の資質向上については、教員向けの夏期研修会に支援員にも参加してもらい、特に特別支援に関する研修を受けてもらい、子供の実態に合った支援をしていただけるようになってきている。今年度は実施できなかったが、今後も実施し、支援員の資質を高めていきたいと考えている。

○加藤委員

一市町村の教育委員会が考えるべきことではないだろうが、3,000人の1割に近い子供が支援を必要としているということが驚き。学校訪問すると付きっきりで支援している方を見かけるが、敬意を表したい。なぜ支援が必要になってきているのか、対処できる方法はないか。一人ひとりに向き合って対象児童が増えてきたということなのだろうが、原因と対策について何か考えられることはないか。

○事務局次長

発達障害についての認識が広まってきて、教職員もその研修を受けることで意識が高まってきている。これまで見落としがちだった子も、個別支援計画を各校で作成する等しており、障害に対する認識が広がってきたことも一つの要因だと考えられる。また、より丁寧に支援していこうということから数が増えているともいえる。原因については今の時点でこれというものはない。

○市長

いい教育をいろんな子が受けられる環境になってきたということだろう。グローバル化により、日本語指導が必要な子についてはこれから増えていくことが想定される。

○加藤委員

週20時間未満とかの規制があるということだが、国が35人学級という方向に進んでいる中、このような縛りがあると活動していただくのに支障が生じてくると思う。人数を増やしていくことは可能なのだろうか。

○事務局長

単純にみると同じ30人でも働ける時間は減っていることになるのは理解している。必要に応じて、支援していただける人を募集し、随時増やしていきたい。現在支援員として働いている方は扶養に入っている方も多く、勤務時間を増やすと不利益が生じることが考えられるためこのような勤務体系にしている。必

要な分は人員を確保し配置していく。

○市長

大切な課題であり、市長部局としても予算がないという理由だけでは済まされないことであることは承知しているので、現場の状況を聞かせてもらい、協議しながら決めていきたい。

③瑞浪市のいじめの現状について

○館林学校教育課教育推進係総括主査

協議・調整事項③について、資料をもとに説明

○加藤委員

4 令和2年度調査結果(1)いじめの認知件数と児童生徒の意識について、児童生徒の意識は複数回答があるから数が多いということだったが、認知件数及び(2)いじめの態様と数の乖離があるがどのような差なのか。

○学校教育課総括主査

(2)いじめの態様については、認知件数に合わせている。学校が認知しているものに対してどのような対応を行っているかということ。児童生徒の意識については、一人に3つ、4つと回答することもあるが、すべて1つずつ計上している。「いじめは解決した」という項目には、例えばいやなことを言われてもすぐに謝られたとか、すぐに先生が間に入って話を聞いてもらえた等も含まれている。

○羽柴委員

裏面の(4)いじめられた児童生徒の相談の状況について、「学級担任」が多いのはいいこと。しかし、(3)いじめの発見のきっかけについては、アンケートでしかいじめが発見できていないということが気になる。全体が荒れていてまったく気が付かないということではなく、本当に数が少ないという理解でよいか。いじめは早期発見・早期対応が重要。学校組織でいじめ対策に取り組む姿勢はどの先生ももっていてほしい。

○事務局次長

10校どの学校も落ち着いて安定している。生徒指導上の校内での問題もほぼない。

○可児委員

裏面5 考察の一番下だが、先生がいじめを発見するケースが少ないということだが、「いじめの透明化」ということが言われる。例えば、プロレスごっこが行われていてお互いに笑っているとき、客観的には暴力をふるうことなので

いじめにあたるが、やられている側が笑っていたらじゃれていることになる。軽い悪口を受け流している場面も同じで、いじめの定義には当たっても、子供を普段見ていて人間関係を見ていると、日常生活の一部になっていじめと認識できないことがある。これを「いじめの透明化」ということがある。先生だけの視点ではやはり難しく、アンケートや人権教育の実施、他のクラスメイトからの指摘や学校の投書箱等、他覚的に言える機会を多く作ることが大切。先生は負担も大きいだろうし、子供たちを見ていれば見るほど透明化してしまうこともある。

○加藤委員

裏面8 今後の課題にある、SNS関係のいじめの増加について。今の中学生はほとんどの子がスマホをもっているから、ということでいいのか、また今回配布したタブレットを使用したいじめは不可能であるかの確認がしたい。

○学校教育課総括主査

タブレット端末を使用する際、インターネットにつないで情報を集めたり、写真を撮影したりすることになる。その際には人権の意識を持つことや、モラルをもって行う必要があるということを学習の中で指導していき、自宅に帰って自分のスマホを使うときにも活かせるようにしたい。現在のSNS関係のいじめについては家庭所有のものによる。

○事務局次長

瑞浪市の中学生のスマホ所持率は高くないと思うが、所持している子の中で、SNS上に気になる書き込みをされていたり、自分の知らないところで画像が載せられていたりということがある。情報モラルについては何度も子供たちに指導し意識を高めているところだが、今後も継続したい。また、保護者の危機意識の啓発のために、保護者にもアプローチしたい。今回導入するタブレットには通常いじめ的な書き込みはできないが、メールの機能があり、書き込みができないわけではないので、初期の指導でそのようなことがないようにしたい。

○柴田委員

先日6年生の子を持つ保護者から、子供が「みんなが持っているから買って欲しい」というと言っていた。小学生も携帯電話を持つようになってきている。それを認めて買い与えるのは保護者であるから、先ほど話があったように、保護者の指導を行って、この携帯電話を持つとこのようなこともあるよ、と親にも伝えていかなければならないと感じる。

○事務局次長

各学校が、例えば授業参観後等、保護者の方にも研修をしているが、毎年実施しているのは子供に対してである。対応すればまた新しい手段が出てくるので、機会を見て実施していきたい。

○市長

今は学校へ携帯電話を持ち込んでいいのか。

○事務局次長

基本的には持ち込みをしないことになっているが、どうしても必要な場合は届出をし、許可を得れば持ち込むことができる。

○市長

そういうことであれば、家庭では持っていて学校での所持率はかなり低いということになる。

○羽柴委員

授業中は触れないはずだが。

○事務局次長

持って登校すれば学校が預かることになっている。

○市長

学校の中ではそのような事案は発生しないことになっているといえる。その方がよい。

○教育長

記憶している限り、ほとんどの総合教育会議でいじめに関する議題がある。それだけ瑞浪市が敏感に取り組んでいることの現れだろう。いじめは巧妙に行われ、見えにくい。それを踏まえたうえで、子供がいじめを認識できる力、それを訴えることができる力を育てなければならないと思っている。また、教員も、見えにくい中でもいじめを発見し対応していく、組織として発見していく力を育てることを意識して研修している。教育委員会としても問題提起をして取り組んでいきたい。

○市長

教育委員会がリーダーシップをとって各学校に指導して行ってほしい。これについては今後もうなくなるテーマだと思う。

以上で協議・調整事項については終了とする。これをもって議長を降りる。

4 その他

○市長

市長部局の方から、瑞浪市の主な取り組みを簡単に説明したい。

(1) 光回線整備推進事業

ハード整備は令和3年秋まで、すべてに行き渡るまでには年内いっぱいくらいはかかると見込んでいる。

(2) 土岐橋架け替え事業

土岐橋は老朽化しており、4年くらいを目途に完成させたいが、一度落とすとしばらく通行できなくなるため、素早く行いたい。自転車、歩行者は通れるよう仮設橋は架ける予定。災害が起きたときに釜戸や稲津から流木等が来て、橋に引っ掛かり、自然堤防ができてしまうことを国交省は想定している。ハザードマップ上、益見や栄町周辺は水があふれ、庁舎は5～10メートル近く水につかるのではないかなっている。庁舎の改修もして、電源関係は高いところに移そうと計画している。土岐橋は昭和3年頃にできた橋だが、これを落として橋脚を1つにして高くすることで下の流れを良くする工事。これが済むと市街地の危険性はかなり下がる。

(3) 東濃中部の医療提供体制整備事業

先日審議会から答申をいただき、建設場所が肥田小中の西側あたりの丘陵地に決定した。建設は土岐市と瑞浪市の公設で、建設費は約200億円を見込んでいる。今、新型コロナウイルス感染症の最中であり、今後も新たな感染症の発生も想定しなければならないので、新病院には感染症対策の機能を設けたいと思っているし、厳しい2つの病院を統合し、東濃5市の基幹病院にしなければならないという思いでいる。国の事業に沿っており、採択されれば国から4割の支援を受けられる。東濃厚生病院を運営する厚生連にも負担をしていただき、その残りを土岐市と瑞浪市の人口割で負担しようとして話している。新病院の経営は厚生連に指定管理で委託することになっている。おおむね5年を建設期間と見込んでいる。その後の東濃厚生病院の施設については、土地、建物を所有する厚生連が考えていくことだが、瑞浪市として厚生連に、跡地は診療所機能を残すことについて要望し、確約をいただいている。空いたスペースは介護医療院等に活用していくということもお願いしている。

(4) 道の駅整備事業

瑞浪恵那道路と県道65号恵那御嵩線の唯一瑞浪で交差点ができるところ。国交省からも経済効果も発揮させるように言われている。釜戸の竜吟幼稚園やコミュニティーセンター、商店など、道の駅を中心に釜戸の様々なところを集約したい。設計、用地買収等にこれから取り組んでいく。

(5) 瑞浪駅周辺まちづくり事業

今は構想の段階。JR瑞浪駅北部の「核となる公共施設」について、今あるぼけっとの機能も入れたいし、老朽化の進む文化センターや図書館を北エリアに作る計画でいる。完成するまでは現在の施設の機能を利用したいので、改修して維持していきたい。化石公園の化石博物館、陶磁資料館、市之瀬美術館もいずれ現在の化石公園に集約したいと思っているが、この北部の公共施設の中に展示室を設け、文化施設の資料を展示することもできると良いと考えている。また、名古屋方面へ勤めに出ている子育て世帯を支援する機能も配置したい。瑞浪郵

便局も一緒になって、これから具体的に考えていきたい。

南部については地権者が中心となり、民間施行で再開発していく。組合が主体となって国、県、市からの支援を得ながら開発をしていただくことになっている。

○加藤委員

新病院建設の件だが、市民にはこのことを理解されていない方が多い。もちろん広報みずなみ等では周知されていると思うが、継続的に周知してほしい。

○市長

その声があることは承知している。先日新病院の場所や事務組合に関するパブリックコメントを実施したが、知らなかったという意見もあった。平成28年、県や土岐医師会の代表にも入っていただき研究会を実施した。その中で将来的には400床程度の新病院を作れば、土岐市、瑞浪市、恵那市の恵南も含んだ医療提供の規模になるだろうということで統合を進めるべきだとの意見をいただいた。研究会の意向を受けて検討会を2年間行った。その中では建設場所や建設手法、負担割合、経営主体等を話し合った。その後の準備会では具体的な建設場所、負担割合を絞り込んだ。さらにその後審議会を立ち上げ、準備会で絞り込んだ案を審議し決定した。この経過は広報みずなみやホームページ、市長と語る会で説明をさせていただいてきた。また記者会見でも各新聞社に話してきた。できる限りの情報発信をしてきたつもりだったが、知らなかったという意見が多いことがわかった。そのため、改めて、3月13日に経過報告会を行う予定でいる。東濃厚生病院の院長にも講演していただく。委員の意見は大切なことだと思うので、折に触れて、今まで以上に情報発信していきたい。

○事務局長

以上により、令和2年度瑞浪市総合教育会議を閉会する。

15 : 37 閉会